

IV-228

環境緑地におけるレクリエーション行動の分析

岩手大学 正会員 安藤 昭
岩手大学 正会員 赤谷 隆一
福島県 ○正会員 神谷 順一

1、はじめに

近年生活水準の向上と予想される余暇時間の増大にともない、わが国でもレクリエーションの重要性が認識されてきている。とりわけレクリエーション空間の創出は個性豊かな人間居住環境づくりに不可欠であり、なかでも都市の人間化の大切さが叫ばれている限在、市街地周辺に存在する環境緑地の育成（森づくり）の意義は大きいと言えよう。

しかし、日本における環境緑地は欧米のそれに比べ質・量、アクセスビリティいずれにおいても劣っている。そこで本研究では環境緑地育成に際してレクリエーション行動の面からの調査技法の確立を目指して、交通需要推定に用いられるパーソントリップ調査法をアレンジし、その適用を試みた。加えて、地域住民の環境緑地におけるレクリエーション行動を客観的・定量的に把握し、施設間トリップ量からレクリエーション施設間の結びつきの構造化を行い、創造的保全(CREATIVE CONSERVATION)という視点からの環境緑地の育成について検討するものである。

2、調査方法

調査対象地域は盛岡市中心部北側の北山緑地であり、被験者として盛岡市内に居住する5才以上の男女をランダムサンプリングで選定し、『レクリエーション・パーソントリップ調査票』を留め置き法により配布した。

調査対象期間は、春期昭和61年3月～5月、夏期6月～8月秋期9月～11月の三期であり、この調査をそれぞれ春期昭和61年6月6日～17日、夏期9月10日～20日、秋期12月1日～10日に行った。

調査内容は、北山緑地内において被験者が調査対象期間内においてレクリエーションを行ったある1日の行動を記入するというもので、春期は1000人に配布し、有効回答者464人、有効回答率46%、夏期は800人に配布し、有効回答者357人、有効回答率45%秋期は920人に配布し、有効回答者411人、有効回答率45%、全体として2720人に配布し、有効回答者1232人、有効回答率45%であった。

3、解析結果及び考察

1) 性・年齢別1人当たり平均トリップ数(表-1)

全体としては、自宅を出発し、1～2か所の施設でレクリエーションを行い、帰宅するというトリップが多い。また、男女それぞれの全体でのトリップ数はほとんど同じであった。

年齢階層別にみると、男性では20～40才において、女性では40～65才においてそれぞれの平均トリップ数を上回っており、全体でみると20～55才において平均トリップ数が上回っている。

2) 季節別1人当たり平均トリップ数及び季節別・目的別トリップ数とその構成比(表-2)

平均トリップ数は春期に比べて夏期・秋期がわずかに多く平均値を上回っている。目的別トリップ数では「自宅へ」を除くと、春期は散歩・散策、花見をはじめとして娯楽・遊び、墓参り等のトリップ数が多く、特に高松の池という桜の名所があるため花見の多いことが特色で

表-1 性・年齢別1人当たり平均トリップ数

年齢階層	男性				女性				全体			
	トリップ数	人数	平均トリップ数	トリップ数	人数	平均トリップ数	トリップ数	人数	トリップ数	人数	平均トリップ数	トリップ数
5-10	0	0	0.000	8	3	2.667	8	3	2.667			
10-15	10	4	2.500	17	6	2.833	27	9	3.000			
15-20	47	14	3.357	58	21	2.762	105	35	3.000			
20-25	172	58	2.966	121	45	2.689	293	103	2.845			
25-30	77	26	2.962	181	58	3.121	258	84	3.071			
30-35	139	46	3.022	214	79	2.709	353	125	2.824			
35-40	163	53	3.075	301	107	2.813	464	160	2.900			
40-45	140	56	2.500	204	68	2.985	344	124	2.774			
45-50	104	39	2.667	170	58	2.931	274	97	2.825			
50-55	120	43	2.791	169	58	2.914	289	101	2.861			
55-60	122	43	2.711	173	56	3.089	295	101	2.920			
60-65	193	73	2.644	182	62	2.935	375	135	2.776			
65-70	163	56	2.750	188	57	3.298	351	113	3.097			
不明							240	80	3.000			
全体	1450	514	2.821	1767	628	2.814	3467	1232	2.806			

表-2 季節別1人当たり平均トリップ数及び季節別・目的別トリップ数とその構成比

	春	夏	秋	全体
1 スポーツ	28 (2.27)	64 (8.38)	20 (1.71)	112 (3.27)
2 散歩・散策	27 (2.11)	17 (1.88)	12 (1.11)	56 (1.88)
3 バイク・自転車	3 (0.08)	18 (1.78)	30 (2.68)	51 (2.62)
4 散歩・散策	198 (15.88)	187 (15.58)	308 (26.08)	693 (18.15)
5 花見	180 (14.18)	7 (0.78)	9 (0.80)	196 (4.84)
6 花見	0 (0.00)	0 (0.00)	12 (1.02)	12 (0.38)
7 山歩き	7 (0.55)	2 (0.20)	1 (0.09)	10 (0.28)
8 リゾート・温泉	0 (0.00)	1 (0.10)	18 (1.58)	19 (0.58)
9 釣り	13 (1.02)	2 (0.20)	18 (1.58)	33 (1.04)
10 池遊び	3 (0.23)	1 (0.10)	1 (0.09)	5 (0.14)
11 花・野草の観察	0 (0.00)	1 (0.10)	2 (0.17)	3 (0.08)
12 自然観察	16 (1.27)	18 (1.78)	8 (0.77)	42 (1.21)
13 散歩・散策	5 (0.38)	5 (0.55)	5 (0.45)	15 (0.45)
14 散歩	20 (1.57)	18 (1.88)	33 (2.81)	71 (2.00)
15 散歩	84 (6.53)	86 (8.44)	86 (7.43)	256 (7.87)
16 散歩・散策	0 (0.00)	22 (2.18)	38 (3.23)	60 (1.68)
17 散歩・散策	66 (5.18)	53 (5.26)	37 (3.18)	156 (4.22)
18 散歩	28 (2.18)	17 (1.88)	34 (2.90)	79 (2.26)
19 散歩	35 (2.74)	35 (3.48)	33 (2.81)	103 (2.88)
20 散歩	28 (2.18)	44 (4.37)	47 (4.01)	119 (3.37)
21 散歩	48 (3.68)	38 (3.68)	41 (3.48)	127 (3.58)
22 散歩	32 (2.48)	37 (3.67)	33 (2.81)	102 (2.88)
23 不明	17 (1.32)	38 (3.67)	22 (1.88)	77 (2.20)
合計	1277 (100.00)	1007 (100.00)	1173 (100.00)	3457 (100.00)
平均トリップ数	2.782	2.821	2.884	2.806

ある。夏期は散歩・散策、墓参り、スポーツ、娯楽・遊びのトリップ数が多かった。また秋期は散歩・散策がずば抜けて多く、次いで墓参りの順であった。全体的な特色としては散歩・散策のトリップがぬきんで多かった。

3) 着施設別トリップ量及び施設相互間トリップ量(表-3) 表-3より市民のレクリエーショントリップ量からみた北山緑地内各施設の利用動態と各施設間の結びつきの大きさの程度を読みとることができる。

まず各施設の着トリップ量(列合計)から施設の重要度をみると、高松の池がぬきんでおり、その他には中央公民館、北山須川寺院群、榊山稲荷神社、愛宕山展望台が多く、これらは年間を通じて利用されていた。また季節的には夏に市民プールへのトリップが多かった。(図-1)

次に各施設間の結びつきをみるために63のレクリエーション施設について施設相互間トリップ量を図示すると、図-2のようになる。これによると、各施設は盛岡バイパスを境に南北1つずつのグループになっていることがわかる。南側は寺院群が結び付いたグループであり、一方北側グループは高松の池-市立図書館-榊山稲荷神社-聖寿寺と、中央公民館-愛宕山展望台という2つの核を持ち、盛岡競馬場までも含んだ広範囲のものである。このことは、北山緑地における動線のネットワーク構成にとって有能なデータになると考えられる。

4. 検討及び提言

以上の結果と大宮の環境緑地のイメージ解析¹⁾の結果にもとづいて、レクリエーション地域の計画・設計を考える。北側グループにおいてはまず第1に地形を活用した動線のネットワーク構成を行う。これには現在の北山散策路を直線基軸とした直線経路に新しく曲線経路網を加えて循環ルートになるように設計するのが望まれる。これによると、それぞれの経路を利用した場合、同一緑地でありながら全く異なった空間や景観(岩手山、駒ヶ岳等の仰瞰景や市街地、高松の池等の俯瞰景)が味わえる。またこれに伴い自然資源の内容が劣っていることから¹⁾、一部やぶ地の林床改良も行う。その他動植物の観察施設(観察塔、ハイド等)、展望施設、休憩施設のつつましい配置が考えられてよい。第2に交通網の整備として、バス路線の北山緑地までの延長と周縁部への無料駐車場の設置があげられる。また南側の寺院地区においては面的な歩道網の整備が必要である。

〔参考文献〕1) 大宮、赤谷、安藤; 環境緑地のイメージ解析、第42回年次講演会、IV、1987、9

表-3 着施設別トリップ量及び施設相互間トリップ量

施設名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	17	19	28	29	30	31	37	44	47	49	51	合計
1 高松の池	16	9	2	4	12	13	8	8	4	22	3	10	0	1	0	8	8	9	10	1	248
2 約庵	4	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1	40
3 三ツツツツ	3	1	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
4 小野原	3	1	3	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
5 北山散策路(北沢橋-三ツツ)	3	0	1	2	1	2	2	10	0	1	0	0	0	1	0	4	0	0	0	2	57
6 北山散策路(三ツツ-盛岡橋)	6	0	0	0	3	0	1	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	46
7 高松池西側コース	8	1	1	0	2	3	0	1	0	2	0	3	0	1	0	2	0	1	0	0	60
8 盛岡山展望台	4	0	1	3	7	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	18	0	0	1	3	76
9 盛岡山展望台	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
17 山崎神社	11	0	1	0	2	3	2	2	0	1	0	7	0	2	0	3	0	1	0	1	80
19 三ツツ神社	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	18
28 盛岡寺	10	0	0	1	1	4	1	4	0	7	0	1	0	2	1	1	0	0	0	0	63
29 北山山展望	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	2	1	0	0	0	1	63
30 北山山展望	0	1	0	1	1	1	0	1	0	2	2	0	2	1	5	4	0	0	1	1	58
31 北山山展望	0	1	0	0	1	0	1	0	2	1	1	0	4	3	2	0	0	0	0	0	51
37 中央公民館	7	0	1	1	0	1	1	1	1	3	0	1	0	4	0	3	1	1	1	3	170
44 盛岡競馬場	8	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	58
47 盛岡山展望	16	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	66
49 盛岡山展望	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	43
51 盛岡山展望	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	43
合計	550	41	23	15	58	44	58	78	8	88	22	82	60	98	60	148	80	62	47	42	3467

注: 以上の数値は、調査日の前日から翌トリップ量(1)を施設間トリップ量(2)以上の全ての施設間の間を移動したものである。各施設については7月9日について算出。

